



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター Nara IDSC
（奈良県保健環境研究センター内）



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 流行感染症情報：感染性胃腸炎



（調査週）平成 24 年 第 52 週 12 月 24 日（月）～12 月 30 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週間からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	7.34	→～↓	→～↓	→～↓	→
2	水痘	1.57	→～↑	↑	↑	→～↓
3	RS ウイルス感染症	1.17	→～↑	→～↑	↑	↓
4	インフルエンザ	0.69	↑	↑↑	↑	↑↑
5	A 群溶連菌咽頭炎	0.69	→	→	↑	↓

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は218例で、前週報告の267例から減少。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②水痘、③RSウイルス感染症、④A群溶連菌咽頭炎、⑤インフルエンザの順。インフルエンザの報告数（22例）は、倍増。水痘の報告数（22例）は、増加。RSウイルス感染症の報告数（21例）は、横ばい。感染性胃腸炎の報告数（125例）は、減少。A群溶連菌咽頭炎の報告数（15例）も、減少。また、インフルエンザ定点からの報告は、奈良市HC管内；7例、郡山HC管内；15例の計22例で前週報告数より倍増し、定点当たりの報告数は0.81だった。奈良市HCおよび郡山HC両管内眼科定点と基幹定点からの報告は、いずれからもなかった。

（村井 記）

県北部外来状況 外来患者数は少ない。ノロウイルスの感染性胃腸炎が12月初旬をピークに減少が続いている。年令も乳幼児中心から中学生以上成人に移行し、総じて軽症である。インフルエンザがそろそろ出てきているが流行は1月中旬以降と思われる。RSウイルス感染症の流行も落ち着いてきたが、まだ時々みられる。

(矢追 記)

県中部地区概況 報告数は、234例から183例と減少した。上位5疾患は、感染性胃腸炎、水痘、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、インフルエンザの順であった。感染性胃腸炎は、159例から95例と減少し、水痘は、24例から30例と増加している。インフルエンザは、15例と増加している。基幹定点からは、マイコプラズマ肺炎1例(5~9歳)の報告が、葛城保健所よりあった。眼科定点からは、流行性角結膜炎1例(40~59歳)の報告が、葛城保健所よりあった。

(高木 記)

県中部外来状況 外来数は、年末はノロウイルス及びRSウイルス感染症が多かったが年明けは大変少ない状況。感染性胃腸炎、RSは減少、水痘が増加。インフルエンザはまだ一例もない。

(岡本 記)

県南部地区概況 報告数(第51週→第52週)は49例→43例と推移。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎(30例→37例)、②水痘(11例→3例)、③RSウイルス感染症(2例→1例)、④インフルエンザ(0例→1例)、⑤流行性角結膜炎【眼科定点】(0例→1例)であった。

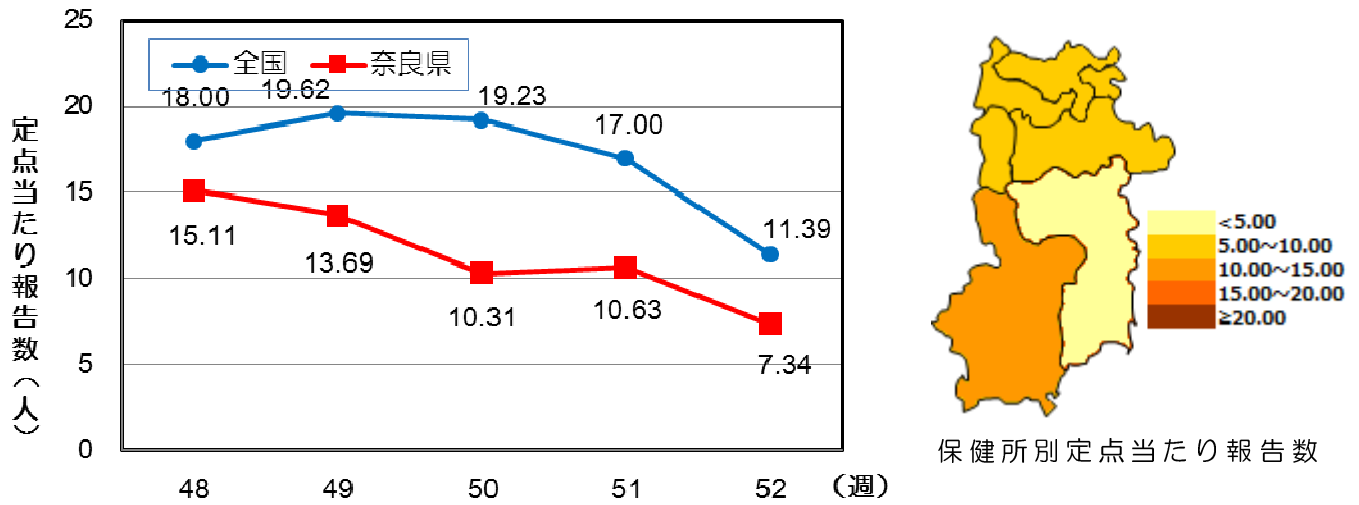
(柳生 記)

県南部外来状況 外来数はやや増加程度、第52週で今季当院初めて中学生女子のインフルエンザが1例あった。橿原のショッピングセンターに出かけていた。その後は第2週現在まで全くインフルエンザは出ていないが、アデノウイルス感染症、マイコプラズマ疑い肺炎、中学生の溶蓮菌感染症など、多彩。RSウイルス感染症も多くはなかったが持続的に見られ、年明けから増加傾向。ノロと思われる感染性胃腸炎は11月初旬からの大流行ほどではないが家族内感染が多く、ほぼ全年齢層にわたって患者が多数見られた。流行性耳下腺炎が地域の保育所、小学校で流行中。水痘も引き続き流行している。

(山本 記)

《流行感染症情報：感染性胃腸炎》

第52週の奈良県全体における定点あたり報告数は7.34（報告数257）と、前週に比べ減少しました。全国値も11.39と、前週より減少しました。



感染症情報センターホームページアドレス

http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-27874.htm

